



新 学 校 長 挨 拶

こ だ い ら



第53号
小平学校広報誌
令和5年夏号
発行所
広報・援護班



第14代小平学校長
兼ねて小平駐屯地司令
陸将補 平澤 達也

令和五年三月三十日付で第十四代学校長兼ねて小平駐屯地司令として着任しました平澤達也です。

小平市防衛協会、小平市隊友会、清武会の皆様、小平市を始めとする地域の皆さまにおかれましては、日頃から小平学校及び小平駐屯地に対しまして、格別のご理解・ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。皆様、ご承知のとおり、最近の日本を取り巻く国内外情勢は様々な形で変化しており、それ的確・効果的に対応することが求められています。このような中、小平学校としましては、陸上自衛隊の各種行動や防衛基盤を力強く支える人材の育成という、学校本来の使命を果たすことを本旨としつつ、規律心と即応性を

備えた小平自衛隊として、地域の皆様から厚い信頼と親しみを寄せただけけるよう精進する所存です。

今年度に入り、長く続いていたコロナ禍での制約が徐々に緩和され、今後は行事等の機会に皆様にお会いすることができるようになると思います。職員一同、皆様にお会いできますことを心から楽しみにしておりますとともに、これまで同様、様々なご指導併せて引き続きのご理解・ご声援を賜れば幸いです。宜しくお願い申し上げます。

【略歴】

防衛大学校（応用物理学）卒
（第35期）

国連東ティモール支援団
PKF司令部兵站幕僚

第9次イラク復興支援群2科長
陸上幕僚監部 防衛課・情報課

第3師団司令部第3部長（千僧）
第39普通科連隊長（弘前）

防衛大学校 防衛学教育学群
統率・戦史教育室長

中央情報隊長（朝霞）

陸上総隊司令部情報部長
現職

小平駐屯地納涼祭



納涼祭会場の様子

小平駐屯地は、七月二十日、小平市防衛協会との共催にて、四年ぶりとなる納涼祭を開催した。今年は、「新たな風と伝統の継承」をテーマに、総踊りの他、警察・消防との合同防災体験教室、地元の学校や子供たちによる音楽演奏やダンスパフォーマンス等を行った。当日は天候にも恵まれ、一万人を超える市民が来場され、祭りを楽しむ市民の方の表情から隊員も大きな元気をもらおうと共に、代々の職員により築かれた「地域と共にある小平駐屯地」を実感する一日となった。

令和五年度統合防災演習

小平学校は、六月二十六日から三十日の間、南海トラフ巨大地震を想定した設定で行われた令和五年度自衛隊統合防災演習に参加した。

学校としては、計画に基づき増強幕僚を派遣し、東部方面総監の指揮下での指揮幕僚活動を実施した。

また、職員が実際に地震が発生した時にどのような意識を持つて行動しないといけないのか、家族や身内との連絡手段をどのように確保しなくてはならないのかということ。を改めて認識させられました。駐屯地では人命救助セットの取り扱いを実際に行い、隊員各々が災害に備える訓練を実施した。



人命救助セット取扱い訓練

状況報告の様子

大野学校長離任

令和五年三月三十日、第十三代小平学校長兼ねて小平駐屯地司令大野真陸将補が東北方面総監部幕僚長として栄転されました。

週末に観桜会を控える中、翌日着校する新しい学校長が観桜会を滞りなく実施できるように最後まで準備に余念がありませんでした。

大野前学校長は、離任にあたって、職員全員に対して感謝の意を述べると共に、これからの小平学校及び小平駐屯地を発展させていくように訓示されました。

見送りでは、花束を受けて感無量の思いで小平駐屯地へとにされました。大野陸将補のこれからの更なるご活躍を職員一同心より願っています。



盛大な拍手の中を見送られる大野陸将補



第18代副校長
兼ねて企画室長
1等陸佐 松田 靖史

広報誌「こだいら」をご覧の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここ数年続いていた新型コロナナの感染状況もようやく落ち着きを見せてきました。今年度は、観桜会をコロナ前と同様に開催でき、納涼祭も4年ぶりに開催できるような状況となつてまいりました。一刻も早く地域の皆様の笑顔が見られることを楽しみにしております。

本年の小平学校は、3月末に平澤小学校長に替わり、新体制での校務運営となります。学校長には早く状況を把握されて、歩み止めることなく円滑に校務を運営していくべき年と捉えております。また、駐屯地としてもコロナ以前のように地域の皆様との連携・協力を再開できるような努めてまいります。

ウクライナ紛争は未だ継続し、日本を取り巻く安全保障環境も常に流動的で、油断を許さない状況であります。将来を見据え、着実に進化する小平学校、小平駐屯地へと精進して参りますので、引き続き皆様のご指導、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



最前任上級曹長
准 陸 尉
高 橋 勇

「かりてきたネコ」

広報誌「こだいら」読者の皆さま、こんにちは。毎日、暑い日が続いています。体調には十分に注意してください。コロナ感染症も5類に引き下げられたとはいえ、ウイルスが完全になくなったわけではありませんので引き続き注意が必要だと思います。そして小平駐屯地の各種行事は、徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

さて、私は最前任上級曹長として隊員の躰、規律を指導する立場にありますが、うまく伝わらないことも多く、日々悩んでいるのが現状です。そんな中、ある素敵な言葉に出会いましたので皆さんに紹介したいと思います。

それは「かりてきたネコ」という言葉です。皆さんがご承知の、人前でおとなしいという意味ではありません。次の頭文字を取った言葉です。

「か」感情的にならない
「り」理由を話す
「て」手短に済ませる
「き」キャラ（人格・性格）に触れない
「た」他人と比較しない
「ね」根に持たない
「こ」個別に伝える
いかがでしょうか？

コンプライアンスが大切だと言われる現代の社会において、ハラスメントを意識するあまり、指導できなくなっている方も少なくないと思えます。指導する立場の方は、ぜひ「かりてきたネコ」を参考に最前任上級曹長として隊員指導に全力でがんばります。

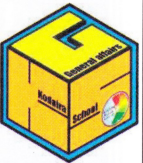
駐屯地観桜会

駐屯地は、4月1日に小平市防衛協会と共催で観桜会を4年ぶりに実施しました。この前日に着任した平澤新学校長の挨拶にはじまり、小平市長小林洋子様から祝辞を頂き、清武会川久保会長の乾杯で楽しいひと時を皆様と過ごすことができました。当日は天候にも恵まれ、思い出の一日となりました。

また、翌日には「自衛隊の桜を見に行こう」と名打つて駐屯地内桜の通り抜け（一般開放）を実施しました。約千五百人の市民の方々にご来場いただきました。



小平市防衛協会永田会長の挨拶



総務部



総務部長 陸佐 彦
1等 福永

皆様初めまして。令和5年3月に東方総監部施設課長から総務部長へ着任した福永1佐と申します。

秋の鳴き声が寒蝉へと変わり、秋の兆しが少しずつ露わになってきているとはいえ、小平では相変わらず厳しい残暑が続きます。電気代高騰と空調機の維持に頭を悩ます日々が続いております。

これまで予算環境の好転を機に、老朽、陳腐化した施設や備品を刷新すべく取り組んでまいりましたが、現在はこれらが少しずつ実っていく状況にあります。また、コロナ対策により希薄となつた地域との関係再構築において、着任早々の観桜会や桜観覧一般開放を皮切りに、4年ぶりの開催となった駐屯地納涼祭や、法務シンポジウム等、OB会である清武会、隊友会、そして小平市防衛協会の皆様のご支援のもと各種行事に取り組みすることです。着実にコロナ以前の関係を取り戻しつつあります。特に駐屯地納涼祭は、準備段階から小平市をはじめ、警察・消防、防衛協会等多くの関係者とともに検討を重ね、地域住民の方々にも楽しんで頂く機会となるよう取り組まれました。

議論を重ねる中で相互理解も進み、地域とともにある駐屯地へと大きく歩を進めたものと実感しております。

小平駐屯地は最大の人口密集地である東京に所在し、都心からもアクセスが容易で注目を集めやすいという特性があり、教育科目の特性上、部外有識者の方々が数多く講師として来訪されるアカデミックな校風も有しています。これからの小平の特性を踏まえ、駐屯地の基盤を充実させていくとともに、地域の皆様に広く理解して頂くよう取り組んでまいりますので、ご支援よろしくお願いたします。

警察との共同訓練

総務部は2月28日（火）、駐屯地において警察（小平警察署）との共同訓練を実施しました。訓練は、駐屯地正門から侵入しようとする者に対し、自衛隊と警察が共同で侵入を阻止するもので、駐屯地警備に関わる隊員が各種事案に遭遇した際、冷静かつ適切に対応できるように訓練しました。



訓練の様子

企 画 室

富士総合火力演習研修 (計画班)

五月二十七日(土)幹部特修課程、幹部上級課程、3尉候補者課程学生106名に対し、東富士演習場で実施された令和五年度富士総合火力演習を研修し、普通科、野戦特科及び機甲科の戦闘職種部隊の火力戦闘等、実戦の様相を認識させる事ができました。

今年度は昼間演習と夜間演習を研修し、各種状況下における戦闘職種部隊の火力戦闘の様相を体感させるとともに、装備品展示を研修して戦闘職種部隊が保有している装備品の概要を理解し、被支援部隊の支援任務を第一義とする警務科・会計科の職種として必要な戦闘職種部隊の概要を修得することができました。これから学生は「被支援部隊に対する支援業務」を主体として課程教育を受講する事となります。



【模擬戦闘の展示】 【模擬戦闘の展示】 【装備品の展示】

令和5年度自衛隊統合防災演習 (監理班)

六月二十六日(月)から六月三十日(金)までの間、令和五年度自衛隊統合防災演習に参加し、南海トラフ地震対処計画等に基づく、演習小平学校の指揮幕僚活動及び増強幕僚としての活動を演練して災害対処能力の維持・向上を図りました。

本演習の参加にあたり、準備訓練として増強幕僚教育及び認識統一教育を実施し、地震及び対処計画に関する知識付与を図るとともに、小平市との災害対応に係る連絡調整及び第1後方支援連隊が実施する、多摩東分区自治体の防災担当者及び東京地本担当者との連絡調整会議に参加し、分区担当部隊及び自治体との災害対処要領を具体化しました。

また、本訓練においては陸上幕僚監部等を含めた計画において明確化されていない小平学校としての災害対処を確実かつ円滑に遂行するために必要な事項に関する検討を実施するとともに、小平学校災害派遣計画の実効性に関する検証を実施しました。今後の本演習の成果は災害派遣計画の見直しに反映していきます。



【第一後方支援連隊による連絡調整会議】

幹部特修課程兵棋演習 (戦術教育班)

令和五年五月三十日(火)から六月二日(金)までの間、第五十九期幹部特修課程(警務科)及び第六十二期幹部特修課程(会計科)の学生十一名に対し、第一想定(後段)兵棋演習を実施して、陣地攻撃に引き続き陣地防御における師団の運用及び司令部幕僚活動を概ね修得させることができました。

本訓練は、一連の状況の中で演習師団司令部幕僚長、第二部長及び第三部長以下の主要職務を学生に実施させ、判明した状況及び彼等の損耗に応じた各部の見積を第二部長及び第三部長が連携、分析して実効性ある幕僚案を作成し、それに基づく計画を修正するとともに命令を起案する等、一貫性、論理性及び客観性ある幕僚活動を通じて、戦術識能を向上させることができました。この際、システム教育部が教育する陸曹システム運用課程の学生の参加を得てクロード系クラウドシステムを活用し、最新の状況図をタイムリー、かつ、疑義なく演習司令部で共有することができた等、今後の兵棋演習の資を得ることができました。



【FOC学生幕僚長以下の幕僚会議】

★死亡叙勲に関するお願い

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は、叙勲の対象となります。特に、死亡叙勲については、御遺族からの申し出によって手続きを進めることとなりますが、手続き期間が限られており、定められた期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなります。

万が一ご本人が亡くなられた場合には、死亡日を含めて五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へご連絡いただけるようお願いいたします。

また、元隊員の死亡の情報を知り得た場合は、次の連絡先にまでご連絡いただきますようお願いいたします。

【連絡先】小平駐屯地総務部人事班
電話 042-1322-0661
内線(212)

★自衛官募集情報受付中

平成三十年十月一日から一般曹候補生と自衛官候補生の応募資格が一部変更になりました。

年齢制限が十八歳以上二十七歳未満から、十八歳以上三十三歳未満(ただし三十二歳の者にあつては採用予定月の一日から起算して三月に達していない者に限る)に幅が広がりました。今が自衛官になるチャンスです。

現在、自衛官募集が厳しい状況です。情報提供をお願いします。

【連絡先】小平駐屯地総務部広報班
電話 042-1322-0661
内線(231)

警務科部

部長挨拶



警務科部長
山本 1 佐

暑中お見舞い申し上げます。
皆様いかがお過ごしでしょうか？
今年も、コロナ禍も落ち着きを取り戻し、コロナ禍前の状態に移行していくものと思います。
部は、警務隊及び関係部署と連携を図りつつ、激変する時代を乗り越え得る隊員を育成するための教育、部隊の作戦行動に資する研究を推進中です。
部として、警務隊に貢献できるように精進して参りますので、引き続き、警務科部へのご指導・ご助言等を宜しくお願いいたします。



教務科

暑中お見舞い申し上げます。
教務科は、教育環境の改善のため、入校学生の教育基盤及び職員の仕事環境の改善に努めております。
また、校内においては、各教官室・研究科の取りまとめ役として、令和5年度部務運営計画示達準備を実施しました。
更に、職種部隊との架け橋となるように、教務科長を核として、教務科員がワンチームとなり、教務科業務の更なる遂行に精進する所存であります。
引き続き、ご支援・ご協力を宜しく願います。



05部務運営計画示達

捜査教官室

暑中お見舞い申し上げます。
コロナウイルスの流行で、様々な制約を受けていましたが、5類に移行したことにより、部外研修が再開され、教育も平常に戻りつつあります。
現在入校中の第一二七期陸曹特技課程「警務」四四名は、教育の仕上げである「捜査演習」及び「野外訓練」を終え、六月下旬の逮捕術検定及び柔道昇段審査に向けた教育に励み、部隊において活躍できる警務官になれることを目指しています。
捜査教官室は、秋に四個課程の入校を控え最大の繁忙期となりますが、法学教官の再任用とともに、新たな法学教官を迎え、教官相互に情報を共有し議論を深め、警務科隊員の育成に邁進する所存であります。



MPE捜査演習における捜査活動

運用教官室

暑中お見舞い申し上げます。
現在、運用教官室として一般課程四個課程（FOC・AOC・BOC・SLC）計四十七名の教育を受け持つとともに、特技課程（MPE）の逮捕術、保安業務等の課目を実施中です。
6月には、警務科部として最大規模の訓練である、AOC、BOC、SLC及びMPEの四個課程合同野外訓練を相馬原演習場にて実施しました。
この訓練では、2月のMPE野外訓練に引き続き、第12偵察戦闘大隊の支援を得て、ドローンを使用した状況付与を実施し、経空脅威等の現代戦の特性を理解させるなど、新たな取り組みにより、教育の充実を図っております。



A B S M合同野外訓練

研究科

暑中お見舞い申し上げます。
研究科は、陸上自衛隊警務科職種の研究部門として、昨年度来、職種運用教範の改正に向けた検討や訓練資料「逮捕術」改正等に取り組んでおります。
また、令和5年度小平法務研究シンポジウムにおいて、分科会を主催し部内外有識者との意見交換等を通じて命題研究の資を得ることができました。
このほか、教育訓練研究本部、各学域研究部等と連携して、警務科の部隊訓練評価基準の見直し等を実施しています。
引き続き努力して参りますので、どうぞよろしく願います。



校内審議会



逮捕術の起草案作成



会計科部

御挨拶



会計科部長
1等陸佐
濱松 泰広

本年三月、会計科部長に着任しました濱松一佐です。宜しく
お願い致します。

会計科部は、自衛官・事務官等に対して会計業務や運用訓練を教育するとともに、会計職種に係る研究を担当しています。引き続き、コロナ感染防止に留意しつつ、学生教育等に全力で取り組み、全国の部隊・機関で真に活躍できる人材を育成して参ります。

今後とも御理解と御協力を賜りますようお願い致します。



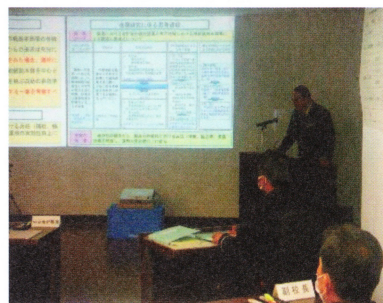
最 先 任 上 級 曹 長
准 陸 尉
本 庄 功 志

本年八月、会計科部最上級曹長に上番しました本庄准尉です。宜しくお願い致します。この数年猛威を振るった新型コロナウイルスは五類となりましたが、引き続き感染予防に留意するとともに、継続的な教育ができるよう努めています。

我々は国費を取り扱う職種として、根拠法規に基づいた「知識・技能」の修得を基本とし、他部隊との信頼関係を構築するとともに、実力を発揮できる人材の育成に邁進してまいります。

課程教育

◎ 第61期幹部特修課程



職種命題発表
R5. 1. 24

◎ 第175期初級陸曹特技課程



会計実務演習
R5. 3. 20～R5. 3. 23

◎ 第72期三尉候補者課程



会計科幹部の資質 (史料館研修)
R5. 5. 15

◎ 第86期幹部上級課程



業務システム
R5. 5. 25

◎ 第79期幹部初級課程



班訓練
R5. 6. 1～R5. 6. 3

◎ 第57期上級陸曹特技課程



総合演習
R5. 7. 11～R5. 7. 13

学生所見

◎ 第86期幹部上級課程



学生長
丹野一尉

十八名の同期が約五年ぶりに小平に集合し、早くも卒業を迎えようとしています。幹部上級課程では、議題に対して討議を実施する機会が多く、その中で様々な視点で着意すべき事項等を考察し、自己の意見を説明していく中で周囲の意見を聞くことにより、考察の幅が広がりました。

引き続き、卒業後の補職の重責を自覚し、残りの期間も切磋琢磨して修学に励むとともに、卒業後の勤務において、自信を持って職務に邁進することができるよう、より一層精進します。

◎ 第72期三尉候補者課程



学生長
武者三尉

私たち二名の学生は、会計科初級幹部としての資質、知識及び技能等を向上させるため日々切磋琢磨することができました。これも原隊、教官を始め職員の方々の御支援、御指導のおかげであり大変感謝しております。卒業し、原隊復帰後においても、部隊の原動力となる初級幹部として、任務を完遂し得るよう引き続き、励んでいく所存です。

◎ 第57期上級陸曹特技課程



「調達」
学生長
古瀬曹長

令和五年五月十日に九名での入校式を実施し、後日、聴講者一名を加え、総員十名にて教育に参加しました。同期全員、このような機会を与えて下さった原隊の皆様に感謝しつつ、上級陸曹として部隊に貢献するため、必要な資質・識能を身に付けるべく、日々努力してきました。

教育を通じて、法令・根拠の確認や、判断力・応用力等の重要性を改めて感じています。今後は教育の成果を発揮し、調達会計分野の専門家として、任務完遂に向けて邁進する所存です。

◎ 第175期初級陸曹特技課程



第二区隊
学生長
福田三曹

本課程を通じ、会計職種の陸曹としての基礎を学び、自衛官として、また人として大きく成長できたのではないかと感じております。これも陸曹会計の指導官や関係者の方々や昼夜を分たずに導いて下さった賜物だと思っております。

本課程で出会えた同期の存在に感謝をし、職種のプロとして目的と目標を立て、一つ一つを達成して、本課程で学んだ事を土台として日々精進してまいります。

人事教育部

新着任部長挨拶



人事教育部長
防衛技官 加藤 直敏

幹部渉外広報課程



第301映像写真中隊
猿渡 2尉



本年四月一日付で人事教育部長に着任致しました加藤技官です。よろしくお願い致します。

人事教育部は、陸海空自衛官及び事務官等に対して、人事等に関する課程教育及び集合教育を年間十二個課程等、二十九個コース実施し、約七百名の学生が入学して参ります。

このように多種多様な教育を担当する人事教育部長として勤務できることは大変光栄であるとともに、その使命と責任の重さに身の引き締まる思いです。

平澤学校長の下、「カイゼン」を要望事項として、何事にも全力で取り組んでまいりますので、人事教育部へのご指導ご助言を宜しくお願い申し上げます。



令和五年五月二十五日から同年六月二十三日の間、幹部渉外広報課程の教育が行われました。

根拠・規則等の基本的な事項から各教官の実経験に基づくものもあり、段階的で興味ある内容でした。また、部内外の研修・講義は、社会人に必要な一般常識・マナー、他機関の広報実態や問題点について共有し学びました。広報は、平時における戦争であり、有事においてはは最前線となります。昨今の情勢からもわかるよう、情報戦と広報は一体であり、その重要性和やりがいを改めて認識しました。卒業後に担当幹部として補職された際、今の気持ち忘れず日々精進していく所存です。

入校間、尽力いただきました教官をはじめ学校職員の方々に深く感謝申し上げます。



芸能プロダクション
サンミュージック研修

初級陸曹厚生課程



第32 普通科連隊
渡邊 1曹

令和五年六月一日から同年七月十四日までの間、初級陸曹特技課程「厚生」に全国から十一名が参加、自衛官、事務官及び共済組合職員混合の編成でお互いに情報交換しながら、共済・厚生業務において必要な資質・識能・技能を修得するため勉学に励みました。

座学で根拠に基づいた知識をつけ、部隊研修等で見分を広げ、実習で技能を磨き、試験前には皆で切磋琢磨しお互いの識能向上に努めました。また、多摩湖散策や高山登山など厚生活動を通じ同期の絆を深めることができました。教育で学んだことを部隊で生かすことにより教育の成果があると考えています。最後に教官に携わって下さった教官方、職員の方々に感謝申し上げます。



富士地区研修

幹部人事課程



中央情報隊
田尻 3佐

令和五年五月十日から同年七月六日までの間、幹部特技課程「人事」に四十名が参加し、人事幹部等として必要な識能を習得し資質を向上させることができました。

特に、本課程では資質の向上を重視されており、教官の教育者としての熱意が強く、我々学生もそれに負けないようにと教育・実習等に取り組んできました。

今後は、本教育で学んだ知識を存分に発揮し、「愛」と「正義」をモットーに業務に取り組む所存です。

最後に、良好な修学環境を整備して頂いた教官及び学校職員の方々に感謝申し上げます。



市ヶ谷研修

今後の入校課程紹介

- 第113期上級陸曹人事課程
入校期間 令和5年8月23日
入校者数 40名
10月17日
- 第69期事務官等初任採用者集合教育
入校期間 令和5年8月24日
入校者数 39名
9月8日
- 第53期幹部厚生A課程
入校期間 令和5年8月24日
入校者数 18名
9月22日
- 第6期報道担当者集合教育
入校期間 令和5年8月28日
入校者数 未定
9月1日
- 第29期駐屯地業務隊長等集合教育
入校期間 令和5年9月11日
入校者数 未定
9月15日
- 第70期事務官等初任採用者集合教育
入校期間 令和5年9月21日
入校者数 45名
10月6日



法務教育部

部長挨拶



法務教育部長
阿比留 1 佐

法務教官室

第63期幹部法務課程

広報紙「こだいら」を御愛読の皆さま、三月十三日付けで法務教育部長に就任した阿比留一佐です。

小平駐屯地での勤務は初めてとなりますが、駐屯地の発展のため日々精進して参りますので、よろしくお願いいたします。

我々法務教育部は、昨今の厳しい安全保障環境と進化する現代戦において、真に役立つ法務官等を養成するための教育及び運用に資する研究を実施しております。また、教育研究にあたっては、より高度で最新のものを取り入れるため、多くの部内外有識者の皆様からご協力いただいております。

法務分野の更なる発展のため、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。この場を借りて感謝申し上げます。

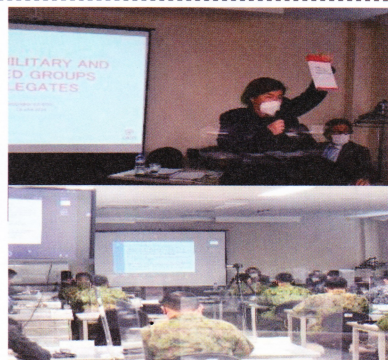
令和四年十一月二十五日、令和五年三月三日までの間、陸海空の自衛官及び事務官二十五名に対して法務幹部等になるための教育を実施しました。

今回はICRC（赤十字国際委員会）による講義において同時通訳を行い意思疎通を容易化して理解促進を図りました。また、総合実習では、一連の状況での幕僚活動を通じ、いかに適法に任務を遂行するか法務幕僚として実施すべき事項を演練しています。

約三カ月の教育を修了し、学生二十五名は将来の法務幕僚として勤務できる日を期待して巣立っていきました。



【陸海空自衛官と事務官の力を結集した幕僚活動】



【ICRCの双方向性を確保した講義】

第4期

作戦法規集合教育

令和五年四月五日から同月二十一日までの約三週にわたり「各学校の法令教育担当教官及び各部隊の訓練基幹要員に作戦法規教育を行う能力を修得させました。」ことを目的に教育を実施しました。

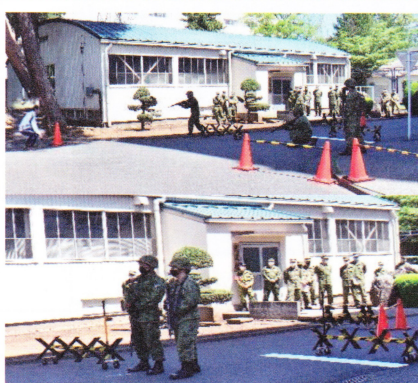
今回の課程は、小隊長、運用訓練幹部等の訓練基幹要員、学校教官等総勢三十九名が修学し、防衛関係法令、国際人道法等に係る座学のほか、受講課目の約半分を占める実習は、主に連隊以下における部隊運用に直結する内容を重視したもので、部隊に戻った際にただちに訓練に取り入れ活用できる内容となっております。

教育に当たっては、学生の素養を踏まえ法令の基礎的事項からの段階的な教育となっており、わずか一〇〇時間の短い期間でありながら、各課目とも豊富な知識と経験を有する新進気鋭のスタッフが熱く教育し、学生

令和五年一月、小平駐屯地史料館内の法務教育部展示コーナーをリニューアルしました。従前の各部共通の紹介パネルの更新に併せ、新たに、「旧陸軍法務の歴史」、「陸上自衛隊法務の歴史」及び「陸上自衛隊法務要員の海外派遣実績」の3つのパネル揭示と、これまで法務分野で作成・使用した教育資料（ビデオ教材を含む）や腕章・記章等の展示を追加しました。

まだまだ、陸上自衛隊法務分野全体を網羅したものとは言えません。今後も更に展示を充実

の熱心な学ぶ姿勢によって充実した教育となっております。本教育は、年度内に二回実施しており、志のある者は、是非参加を検討してみてください。職員一同お待ちしております。



【野外実習（警職法）】

研究科

駐屯地史料館

法務教育部展示コーナー

令和五年一月、小平駐屯地史料館内の法務教育部展示コーナーをリニューアルしました。従前の各部共通の紹介パネルの更新に併せ、新たに、「旧陸軍法務の歴史」、「陸上自衛隊法務の歴史」及び「陸上自衛隊法務要員の海外派遣実績」の3つのパネル揭示と、これまで法務分野で作成・使用した教育資料（ビデオ教材を含む）や腕章・記章等の展示を追加しました。

まだまだ、陸上自衛隊法務分野全体を網羅したものとは言えません。今後も更に展示を充実

させていく所存ですので、展示に適している内容や展示品等がありましたら、法務教育部研究科まで、お気軽にご連絡ください。



【法務教育部展示コーナー】

成績優秀者紹介

第六十三期 幹部法務課程

【部長賞】



陸上総隊付
一尉 西澤 和明

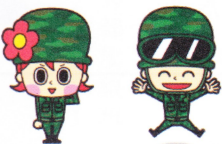
【部長賞】



第五高射特科中隊
二尉 辻 光太郎



【表彰を受ける西澤1尉】



部 長 換 換 抄



システム教育部長
一等陸佐 和 泉 賢 一

システム教育部

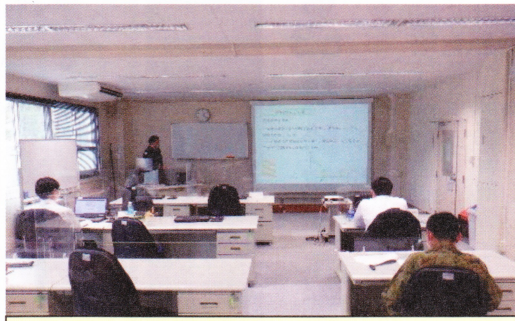
課程紹介(OR)

連日報道されているウクライナ情勢の分析、某国のミサイル発射事案への対処から防衛費増額に伴う効率的な予算配分のあり方等の各種問題について、防衛省内でも科学的見地から意見を求められています。運用解析課程は、これらの問題を数学の理論や技法を用いて最適な解決策を案出することができると幹部を育成するための課程です。入校資格は「理系の大学卒業程度の学力を有する幹部又は事務官等」であり、年2回の教育を行っています。問題解決に興味ある皆さんの入校を教官一同お待ちしております。



【6/5 戦闘シミュレーション指導課程学校長視察】

2020年から始まったコロナ禍の3年間で、オンライン会議や在宅勤務、eラーニング等、インターネットを活用した非対面の勤務環境や教育環境が発達し、自衛隊においても身近なものとなりました。
コロナが5類に移行した現在、ChatGPTをはじめとする生成型AI(人工知能)の使い方をめぐって、世間では活発に議論されています。
このように、日進月歩で進化するIT技術に追随し、自衛隊が保有する各種システム器材を駆使して、効果的・効率的に業務を遂行できる人材を、今後もしっかりと育てていく所存です。
先日は、学校長に戦闘シミュレーション指導課程をご視察いただき、課程教育の現状とWAR SIMの概要についてご理解いただきました。



【 4/26 教授観察 (OR) 】

課程紹介(システム)

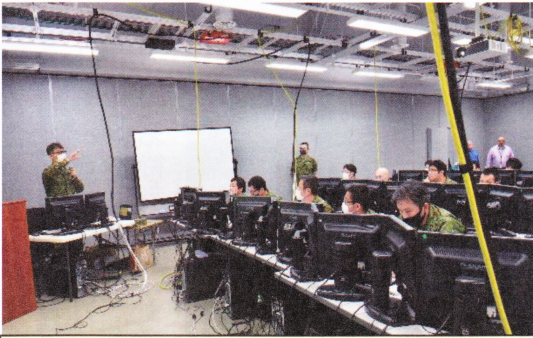
システム運用課程は、陸自クローズドシステム(以降、「正蒼院」と記載します。)を使用した適切な幕僚活動により指揮官等を補佐する幹部及び幕僚活動の支援陸曹を育成することを目標としています。課目は、正蒼院の操作の他、部隊等情報保証責任者補助者に必要な情報システムの基礎技術や情報保証規則等もあり、部隊等のシステムユーザーの中核を担う隊員として必要な識能を修得することが出来ます。部隊のシステムの戦力化の推進役として、皆様ふるつての入校をお待ちしております。



【5/30~6/2 陸曹システム運用課程合同図上演習】

課程紹介(BS)

戦闘シミュレーション指導は、日米豪比共同指揮所演習(YS)の終始を通じて、戦闘シミュレーション(主として米軍の「WAR SIM」を使用。)を適切に運用し得る様、各種機能及びその操作要領を修得するとともに、状況付与を行うゲイマーの育成・指導を実施するために、指導員及びゲイマーの勤務要領及び地位・役割に基づく適切なロールプレイ等の要領を修得させることを目標としており、YS統裁に深く関わることでできる大変やりがいのある教育です。
皆様の入校をお待ちしております。



【6/5 戦闘シミュレーション指導課程】

幹部運用解析課程



自衛艦隊司令部
防衛技官
佐藤 丈徳

第98期は海自技官1名及び空自技官1名が入校しました。約3か月間に、座学や部隊研修などを通じて運用解析について体系的に学びます。
本課程修了後は、学んだ知識を活用し業務に励む所存です。

陸曹システム運用課程



第四地对艦ミサイル連隊
陸曹長
早坂 嘉裕

第80期システム運用課程は14名で参加し、熱心な教官のご指導のもと陸自クローズドシステム運用技術及び知識について約1か月間修学に励みました。今後は、修得した識能を活用していく所存です。

戦闘シミュレーション課程



北方方面ヘリコプター隊
一等陸尉
橋本 暁人

我々36名は、日米豪比共同指揮所演習(YS185)における、WAR SIMを活用した演習統裁の中核となり、同演習の任務達成に貢献すべく、日々精進しています。教官・支援教官の熱意あるご指導に報いるべく、全力を尽くす所存です。



情報学校第2教育部

第2教育部紹介



第2教育部長
1等陸佐
西村 利彦

情報学校第2教育部長の西村一佐です。新型コロナウイルス感染症対策も緩和され、ようやく日常が戻り、教育も制約なく実施できるようになりました。

情報学校第2教育部は語学と一部の情報教育を実施しています。ロシアによるウクライナ侵攻でもほとんど表には出てきませんが、目立たぬところで情報関係者や語学関係者が活躍していると想像しています。特に語学に堪能な人材は、戦史を紐解いても、有事にその需要が急速に拡大します。捕虜の取扱いや停戦交渉など語学に堪能な人材は多くの分野で必要とされます。

こうした語学に堪能な人材の需要に応える1つの施策が「技能公募予備自衛官(語学)」制度だと言えます。普段は会社員等の一般社会で働きつつ、年に数回の招集訓練でその技能を磨き、招集されれば常備自衛官とともに、任務に就くのが技能公募予備自



【技能公募予備自衛官訓練】

衛官です。先日、小平駐屯地において語学採用の技能公募予備自衛官の招集訓練を第2教育部が担任し実施しました。全国から語学で採用された技能公募予備自衛官が応召し、4日間の訓練を実施しました。訓練参加者は旺盛な意欲を持って訓練に臨み、その高い使命感は我々常備自衛官も敬服するものがありました。自らの仕事を休み、遠くは北海道、九州から参加し、任務のため自らの技能を高めようとするその姿勢を頼もしく感じました。

ロシアによるウクライナ侵攻を見ても、侵略者の思惑をあきらめさせるのは国民全体の強い意志だと思えます。我々常備自衛官も気を引き締め、教育訓練に誠心誠意取り組みたいと思います。



第三〇五基地システム通信中隊小平派遣隊

この度、第十代第三〇五基地システム通信中隊小平派遣隊長に着任しました木股3尉です。

歴史と伝統ある小平駐屯地のシステム通信を担う小平派遣隊長として勤務できることに大きな喜びを感じるとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

我々、基地システム通信隊は小平駐屯地における電話・システム通信の維持運営を行っております。また、駐屯地の行事や学校課程教育等における各種システム通信組織の構成を迅速・確実かつ丁寧に行うよう心がけております。そのため、隊務効率化により、少数精鋭での人員ではありますが、業務との節調を図りつつ、日々訓練に励み、駐屯地運営並びに学校教育等を影ながらサポートできるよう全隊員が向上心を持ち、勤務しております。

情勢の変化、教育体制の変化への対応に駐屯地の一員として最善を尽くしてまいりますので、引き続き、皆様の温かい御指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



小平派遣隊一同



第一二六地区警務隊小平連絡班

着任挨拶

新年度もはや四ヶ月が過ぎ、野外訓練に教育入校と、小平学校もいよいよ賑やかに活気に満ちてまいりました。

昨年一二月に、数か月前に卒業した母校の連絡班長に上番してから、小平学校長をはじめ、各部、各課の皆様のご厚情、ご理解を賜り、各種防犯活動、行事支援、司法警察業務を滞りなく進めていくことができております。これも皆様の、警務隊の活動に対するご理解とご協力あつてのことであり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

当隊は、主に小平駐屯地内における犯罪捜査等の司法警察業務、高官来駐時の警護、交通統制、駐屯地内における防犯活動等の保安業務を実施しております。この他、駐屯地近傍八署の警察署と連携を図り、良好な関係を築いております。

今後も連絡班一同、防犯活動に積極的に取り組むとともに、小平駐屯地所在部隊として、司法警察業務及び保安業務の任務に対する即応体制を保持していく所存であります。

引き続き、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。また、学生・職員向け問わず、防犯教育、防犯資料のご依頼等ございましたら喜んで対応いたしますので、ご連絡いただければ幸いです。

曹友会活動紹介

小平駐屯地曹友会会長
陸曹長 大崎 真裕

暮夏の候 皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

令和五年四月から小平駐屯地曹友会会長に就任いたしました小平学校総務部総務課の大崎曹長です。曹友会役員および会員の皆様の協力と、曹友会活動を支えてくださる名誉会長(小平学校長兼小平駐屯地司令)、筆頭相談役(小平学校副校長)、情報学校相談役(第2教育部長)、顧問(小平学校最任上級陸曹) 方々のご理解とお力添えのおかげで駐屯地曹友会活動を行うことができ大変感謝しております。

今春から新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が緩和され「春の交通安全運動」や「小平市環境美化週間ゴミゼロデー」など実施いたしました。

今後も、さまざまな企画を計画して小平駐屯地曹友会の活動を実施し会員の皆様方と融和団結をしながら地域との一体化を念頭に今後も引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



OB便り
疾風勁草

小平の英語教育に感謝

元調査学校・小平学校英語教官

齊田 俊男

英語の発音で彼女の「シー」と見る・海の「スイー」は異なることを知ったのは、今から四十年前小平調査学校の幹部普通英語課程に入校していた時のことでした。それまで読解及び文法中心の英語教育しか受けてこなかった自分にとってまさに目から鱗の出来事でした。

以来小平学校及び幹部学校で計十五年間英語教官を勤めました。この間幸いにも部外研修で通訳コース、英語ヴォイストレーニング及びTOEIC指導者養成コースなどを受講する機会を与えられ自らの英語能力を飛躍的に伸ばすことができました。陸自退官後も、横田基地のBXで十年間勤務することができ、現在は学習塾で中高生相手に英語を教えています。中学で英語を学び始めて半世紀がたった今も若い世代の子供たちと一緒に英語を学び続けられているのも小平で受けた英語教育のお陰と感謝する次第です。

話は変わりますが、自衛隊退官後の就職活動時自分の考え方に影響を与えたのは米国の起業家スティーブ・ジョブズ氏の次の言葉でした。「仕事というものは、あなたの人生の時間を大いに費やすもの。仕事においては満足を得る唯一の方法は、あなたが素晴らしい仕事だと思えることに従事することだ。そして素晴らしい仕事をするための唯一の方法は、あなたの仕事を愛することだ。もしまだ見つからないなかつたとしても決してそれに甘んじず、探し続けることだ。」この言葉は今も自分のモットーとして胸に刻み若い人たちにも紹介しています。最後に今も思い出しますが九州の施設群の小隊長であった自分を快く小平に送り出してくれた当時の上司にはいくら感謝しても過ぎることはないと思っています。このご恩を今後も社会貢献としてお返しすべく地域の中学校や児童館でボランティアとして子供たちの英語の勉強を手伝っていかうと思えます。

【この記事への意見・感想、筆者へのメッセージは小平学校広報援助室までお送りください。責任を持って本人にお渡しします。】

小平市紹介

小平の未来に残したい景観を楽しみながら選ぶ夏

あなたにとって、未来に残したい景観は何ですか？ 荒れ果てた地だった小平が開拓され、そこに生きた人々が長い年月をかけて過ごしてきた証である市内の様々な景観は、当たり前のようにそこにありますが、意識しないとなくなってしまう場合があります。

小平の景観の歴史の意味と価値を再認識し、将来に向けてこれらの景観を残していくために、市民の皆さんと共に「小平景観ベスト10」を選定します。ぜひ投票して下さい。

下記のQRコードから投票サイトにアクセスして、地図面に記載されている「景観ベスト10」候補の17箇所から3つまで選んで下さい。

そのほか、『私のお気に入り』欄は自由記載とし、こちららも3つまで記入することが出来ます。

【選定の主旨】 急速に失われつつある小平らしい歴史的景観を残し、未来へ継承するという観点から、主として江戸時代以前(江戸時代及びそれより前)に形成された景観から選定します。

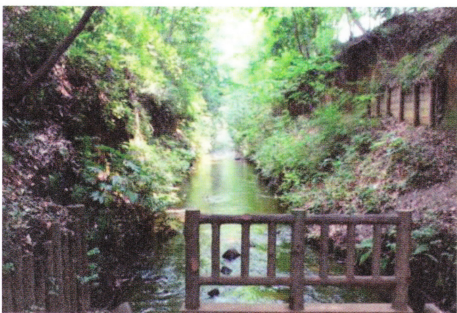

【最終選考】 市民投票の結果を参考に、選定審査会で「未来に残したい小平景観ベスト10」を決定し、広報します。

どなたでもご参加いただけます。

☆投票いただいた方の中から百名様に小平の特選品を進呈いたします。発表は発送をもってかえさせていただきます。

【投票期間】 8月10日～9月30日

このだいら観光まちづくり協会



市内を流れる玉川上水

祝・定年退官



- 総務部 一佐 田辺 弘陽 (三月十三日付)
- 人事教育部 防衛事務官 熊野 修一 (三月三十一日付)
- 警務科部(再任用) 防衛事務官 宅間 昭弘 (三月三十一日付)
- 総務部(再任用) 防衛技官 菊池 典 (三月三十一日付)
- システム教育部 一佐 松尾 康弘 (五月二十一日付)
- 企画室 二佐 桜庭 裕治 (五月二十五日付)
- 人事教育部 曹長 中田 康弘 (七月十一日付)

長年にわたる勤務お疲れさまでした。今後益々のご活躍とご多幸を祈念申し上げます。

計 報
総務部管理課防衛技官小岩井清は、七月九日に逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。